

■北脇昇 画家。15年戦争期に、シュルレアリスムを深化し日本近代美術史に独創的な足跡を残すも、敗戦まもなく早世した。

きたわきのぼる
田中正造直訴1901＝ 愛知県名古屋市中、北脇昇太郎の子に生まれる。本籍は愛媛県新居郡市萩村大字中村二八三番戸。
日露戦争終・1905＝ 4歳：
伊藤博文暗殺1909＝ 8歳：父が単身朝鮮に渡ったことから、
韓国併合・・・1910＝ 9歳：京都に住む叔父広瀬満正(住友財閥初代総理広瀬幸平の長男)に引き取られ、教習屋造りの豪邸で、子供のなかった夫人に可愛がられ、絵を始めてのちも、画材の購入など何一つ不自由することが無かったという。

明治天皇没・1912＝11歳：
21ヶ条要求・1915＝14歳：京都市立銅駝尋常小学校卒業し、私立同志社中学に入学するも、
ロシア革命・1917＝16歳：中退、
ペルシヤ条約・1919＝18歳：鹿子木孟郎の画塾に入るも、
原敬首相暗殺1921＝20歳：退塾し、徴兵検査甲種合格。徴兵を契機に画業を一時中断、
金融恐慌・・・1927＝26歳：若森かねと結婚。その後も叔父の広瀬邸内に住み、
共産党事件・1928＝27歳：叔父が病没してのちは、屋敷の管理などしながら生涯を続ける。
世界恐慌・・・1929＝28歳：第16回二科展に出品された古賀春江らの作品で、日本美術界にシュルレアリスムが登場。この頃、(同志社新聞)にカットを描いているから、周囲から画才が認められていたのはもちろん、

海軍軍縮条約1930＝29歳：長女京子が誕生するが、まもなく亡くなる。プロレタリア美術全盛期のなか、京都の津田青楓画塾(東京にもあった)に入るが、この頃の花の絵など見ると、技術的にはかなりのレベルに達しており、
満洲事変・・・1931＝30歳：パリから帰国した福沢一郎によって、シュルレアリスムは日本画壇の一角を占めるようになる。津田画塾京都塾委員に推挙される。この間、美術学校などに入らず、ほとんど独学の晩成型であったが、
五一五事件・1932＝31歳：長男晃が誕生。早くも師の所属した第19回二科展に『跨橋』『Mart』が初入選。師と安井曾太郎を顧問に、同志と京都洋画協会を結成。多数の人の目を逃れるような風景画に、のちの発見的視覚の萌芽が見られる。
国際連盟脱退1933＝32歳：第20回二科展にも『砂置場』が入選するが、プロレタリア美術に急接近した師が、逃亡中の河上肇をかくまっで連行留置され、突然、画塾が閉鎖される事態に、わずか2か月で、独立美術京都研究所を開塾、
帝人疑獄事件1934＝33歳：須田国太郎が大礼記念京都美術館で開いた各方面に衝撃を与えた個展を契機に、須田国太郎と半ば盟友になり、美術・精神両面の支柱とするようになる。

芥川直木賞始1935＝34歳：この頃独立美術京都研究所に入ってきた小牧源太郎と交友始まり、小牧ら有志とともに、新日本洋画協会結成。次第にシュルレアリスムの傾向を強めて行き、京大乗友会館で『絵画を語る夕』を開催。
二二六事件・1936＝35歳：それまでもシュルレアリスム絵画に触れていたはずであるが、初めて『シュルレアリスト』の語を用いたのは、町内の個人新聞(ニッポン新聞)に投稿したエッセイで、「習作」や翌年の「意表」はすでにシュルレアリスム絵画と言えるものになっている。第6回独立美術協会展に入選した『明暗三裸婦』こそ、須田の独特なリアリズムに感化された、シュルレアリスムへの飛躍の契機になるもので、新日本洋画協会のメンバーによる洋画小品の朱展に続けて出品したり、中井正一らを講師に講演会を開催するなどして深化して行く。

日中戦争始・1937＝36歳：京都に於ける日本画、洋画、彫刻、工芸の各分野を含む京都青年美術家クラブ結成に参加し、クラブ事業として出征者遺家族救済資金募集献画会を計画するが、献金化が捗らず、翌年に傷病将士慰問画として十六師団司令部を経て献画することになった。*京都青年美術家クラブとして海外超現実主義作品展を後援し、須田、瀧口修造、中井正一を招いて講演会を、第2回例会で『写実主義の今日における様相とその使命』を開催するなどして飛躍、第7回独立美術協会展に入選した『断面画』、うどを人間に見立てた『独活』、楓の種子を飛行機に見立てた『空港』で、シュルレアリスムへの傾倒が決定的なものになり、第3回京都市美術展覧会に出品し市長賞になった『眠られぬ夜のために』はじめ、最も静かなる、

健保+総動員 1938＝37歳：独立美術協会展に『浄火』『探索者』入選。『孤独な終末』へと研えわたって行くとともに、一定の枠組みを設定して連作方式で制作する探究の始まりとなる『観相学シリーズ』のほとんどが描かれるなど、独自の問題意識に立つシュルレアリスム画家になったことを示すように、この頃から、自ら関わったグループの印刷物や展評などを丹念に貼ったスクラップ帖とともに、大字ノートに様々なことを書き留めて行く。『京都日日新聞』に連載した『世阿弥の機能主義的理解』では実に示唆的見解を述べている。シュルレアリスム的な作品を発表していた若手画家19名を中心に結成された美術団体創紀美術協会に参加するが、翌年発展的に解消、

第二次大戦始1939＝38歳：朝日新聞京都支局懸賞募集(大京都振興策・第一部文化編)に応募し佳作入賞、(みつゑ)公募の美術批評論に応募し入選し掲載されるなどしながら、独立美術協会展に入選した『形態学の為』に『種の意欲』や、京都市美術展覧会に出品した『美はしき蘭』を最後に、混乱する時代に秩序を求めるかのように、独立美術協会を脱退した福沢一郎を中心に、創紀美術協会をはじめとする前衛グループが集まって結成された美術文化協会に小牧とともに参加、京都支部を北脇方に置くとともに、独立美術京都研究所を脱退し、美術文化協会京都支部にて(美術文化の夕・福沢一郎氏の新しき芸術観を蔽く)に続いて、『美術文化の夕べ』を催し『龍安寺石庭の梯形的構造』について講演し、『七・五・三構造(龍安寺石庭)』『相関的秩序(L.C.M.)』『非相称の相称構造(窓)』『連続性と部分性』『(a+b)2の展相』など、いわゆる図式絵画を出品し始め、

大政翼賛会・1940＝39歳：第1回美術文化協会展の『総合と分析』『秩序混乱構造』『流行現象構造』『(A+B)2意味構造』、美術文化名古屋グループ展の『矛盾律、調和律』、奉祝紀元2600年美術文化秋季展の『文化類型学図式』『想・行・識』と続き、
日米開戦・・・1941＝40歳：懸賞論文「京都市民翼賛体制」(大政翼賛会京都市支部・大阪毎日新聞京都支局)に「京都市民翼賛文化体制」に応募し三等賞受賞。美術文化協会展『周易解理図(乾・坤)』『周易解理図(八卦)』など、思索的になる。
津田青楓画塾、独立美術京都研究所時代にともに学んだ画家であり、新日本洋画協会にも参加していた池田治夫遺作展開催に尽力し、大戦下の芸術報国のための、京都在住の美術家約150名によって結成された京都洋画家連盟に参加するなどするうち、

年金+総武装 1944＝43歳：大阪住友金属工業株式会社に就職し、総務部人事課に勤務するも
敗戦・・・1945＝44歳：敗戦で辞め、第1回京都市主催美術展覧会に「秋の幻想」「朱と紫」を出品して画作を再開、
新憲法公布・1946＝45歳：自らを中心に京都の有志による美術文化研究会を設立、自宅に事務所を置き、講演や討論会などを開き、毎日新聞社主催の京都美術会結成に参加したり、京都美術同友会に加入して、役員をつとめたりし、再刊された(美術文化)第1号に「巨視美と微視美」を発表、

新憲法施行・1947＝46歳：美術文化研究会で戦前の作品を展示し、付随して講演「無意識世界」を行う。日本アヴァンギャルド美術家クラブ結成し会員、須田国太郎らを中心に勤労者美術との相互浸透を図る京都新美術人協会結成し委員。この間も、適宜、展覧会に旧作や旧作をベースにした作品を標本箱のように出品するなかに、『自画像』、
極東裁判決・1948＝47歳：美術文化研究会理論部会例会で、『ダリの実珠論』について講演を行うが、10年ほど前からの大字ノートは7冊にもなり、その1冊には、サルトルの『嘔吐』からかなりの分量を抜き書きしたのに続いて、『ダリの実珠論』の草稿が見られるので、戦後もなお、書き継いでいたとみられ、そのほかにも記されていることは、驚くほど多方面にわたっている。京都新美術人協会を改組し、日本美術会京都支部し、支部長をつとめ、岡本太郎らとともに『モダンアートを語る会』に出席するなどするうち、肋膜炎を発病。

三大事件・・・1949＝48歳：いったん全快し、第9回美術文化協会展に出品した『クォ・ヴァディス』や、『放物線』など、もし彼が生きながらえれば、新たな世界を開いたかもしれない作品を遺して、
朝鮮戦争始・1950＝49歳：病氣再発、肺結核と診断され、広瀬邸を、広誠院という広瀬家、北脇家、伊庭家の菩提寺とし、
独立回復・・・1951＝50歳：国立京都療養所に入り、続いて長男の晃が入所してまもなく、没した。広誠院で告別式が開かれ、須田国太郎、津田青楓が弔辞を読んだ。

翌年の第12回美術文化協会展(京都美術館)で遺作陳列。翌々年、北脇昇遺作展(京都市美術館)。1958年には、国立近代美術館で、4人の作家(小川芋銭・梶田半古・佐分真・北脇昇)展が開かれ、1960年、未亡人かね氏より北脇の作品の大部分が国立近代美術館へ寄贈される。1963年北脇昇13回忌遺作展(東京、青木画廊)、1968年には、中村義一著「日本の前衛絵画その反抗と挫折-Kの場合」(美術出版社)刊行。1997年に、東京と京都国立近代美術館で、(北脇昇展)が開かれ、2023年には、NHK日曜美術館で、「クォ・ヴァディスの秘密」が放映されるなど、近年評価が高まっている